

製品名: デルタ 1 カテニンウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe01903**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.64mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 108 kDa; Observed MW: 108 kDa

抗原情報

遺伝子名	CTNND1
別名	CAS; p120; BCDS2; CTNND; P120CAS; P120CTN; p120(CAS); p120(CTN)
遺伝子 ID	1500
SwissProt ID	O60716
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

背景

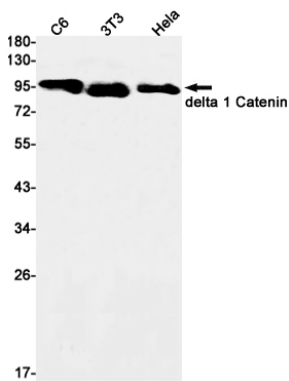
カテニン δ -1 (p120 カテニン) は、アミノ末端にコイルドコイルドメインを有し、これに複数のリン酸化部位を含む調節ドメイン

と、42 アミノ酸の繰り返し配列が 10 個連結した中央のアルマジロリピートドメインが続く。カルボキシ末端の末端には既知の機能は存在しない。カテニン δ -1 は、細胞表面における E カドヘリンのターンオーバーを制御し、細胞間接着に利用可能な E カドヘリンのレベルを決定することで、細胞間接着の制御において重要な役割を果たしている。

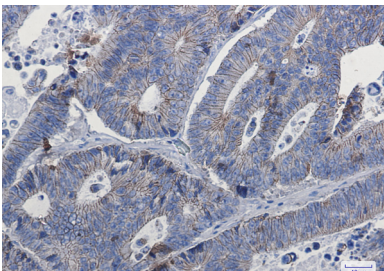
研究分野

細胞生物学

画像データ



デルタ 1 カテニン抗体を使用した C6、3T3、Hela 溶解物中のデルタ 1 カテニンのウエスタン プロット分析。



デルタ 1 カテニン抗体を使用したパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。